

平成 25 年 8 月 8 日

国産材マーク創設のご挨拶

国産材マーク推進會會長（予定）
JAPIC 森林再生事業化委員長 米田雅子



このたび、日本の森林を元気にするために、日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) 森林再生事業化委員会が事務局となり、平成 25 年 8 月 8 日に「国産材マーク」を創設することになりました。

「国民や産業界が国産材をより多く使うことが、日本の森林を元気にすることにつながる」との思いで、製材・合板・丸太・集成材などの木材製品に「国産材マーク」をつけ、企業や消費者に国産材を選んでいただこうというものです。

ユーザーサイドである産業界からの提案による登録商標で、シンプルな表示となっています。JAPIC の委員会に属する企業が先導し、主要な木材関連団体にマークの許諾機関となっただき、国産材マークを全国の木材産業に広める予定です。

日本は国土の約 7 割を森林が占める世界有数の森林国家です。戦後、植えられたスギやヒノキは順調に育ち、現在、日本は 44 億 m³ の豊かな森林資源をもち、森林の年間生育量は、国内の木材使用量を超えています。しかし、日本の木材自給率は 25% にすぎず、75% を海外から輸入しています。

人工林は「木材として伐採し、苗を植え、それを育てるサイクル」が重要です。人工林を放置することは森林荒廃につながります。環境面でも、木は老木になると二酸化炭素を吸収しなくなるため、サイクルを回すことが必要です。日本政府および JAPIC は 2020 年に木材自給率を 50% にあげることが目標にしています。日本の森林から計画的により多くの木を伐りだし、それを製材、合板、チップや燃料に利用することが求められています。

ただし、熱帯雨林の過伐採による砂漠化などで、森林伐採が環境破壊につながるイメージが浸透しています。「日本では国産材を使うことが良いことだ」をアピールするのは容易ではありません。国産材マークを使い、正しい知識を広めていきたいと存じます。

国産材を使うことで、森林再生に加え、環境向上、国土保全、水源涵養、花粉症軽減に寄与するとともに、森林資源の活用で山村の雇用を生みたいと願っております。

国産材マークについてご理解を賜り、ご周知にご協力ください。

今後は、住宅・建築に加え、土木・まちづくりなど広い範囲で、「国産材マークのついた木材製品」を使って頂きたいと、よろしく願いいたします。